

同じ形を立体的に構成して！

—— 型紙、色化粧土を使った「カラフルオブジェ」——



表現内容の要素と発想の視点

- ・表現材料：水簸粘土^{すいひ}、色化粧土
- ・造形要素（色／形／材質）：合同形／単純化、形の立体構成、多色、ほか
- ・表現技法：板づくり、タタラづくり、型紙、化粧土による彩色、イッチン（スリップウェア）、ほか
- ・表現様式：具象形、抽象形
- ・表現対象／主題：カラフルオブジェ／表現者が思考、追究、決定する

写真1 「家族のつながり」
〔約 1200℃焼成／無釉〕
（高さ約 16cm）

造形発想と表現について

造形的なものの見方や考え方、発想の方法にはさまざまな視点がある。同じ形やその組み合わせを見つけたり考えたりすることも一つの方法である。

自然や身の回りの中にもさまざまな同じ形の組み合わせを見つけることができる。そこには形の並びやつながり、まとまりや広がり、リズムやバランスなど、さまざまな造形的な面白さがある。

ここでは、同じ形を立体的に組み合わせる面白さから発想を広げ、「カラフルオブジェ」を表現していく。基本となる形を複数つくるのに「紙型（パターン）」を利用した。

板状粘土をつくり、型紙を当てて同じ形を複数切り抜いて立体的に組み合わせていくのであ

る。基本形は、具象形でも抽象形でもよい。基本形とその組み合わせからイメージを広げ、表現したい対象や主題を発想していく。同じ形のリズムやバランスなどを楽しみながらカラフルオブジェを立体構成的に表現していく。

作品は基本的に色化粧土で彩色し、釉薬をかけずに 1200℃前後で焼成した。

用具／材料

水簸粘土（約 2 kg）、どべ、色化粧土（各色）、厚紙（10 × 10cm）、鉛筆、はさみ、粘土板、タタラ板（10mm）、粘土延べ棒、粘土べら、粘土切り針、敷布、切り糸、なめし革、筆、パレット、カップ（どべ／化粧土入れ）、さじ、ポリ袋、雑巾、新聞紙、ほか

表現のプロセスと内容

●型紙（パターン）をつくる

- ・ 10cm 角の厚紙に基本形を描く。(写真2)
《基本形（型紙）は大小、さまざまに考えられるが、ここではこの大きさの範囲内に特定した。また、大きさ、形の違いなど複数使うこともできるが、数が増えると同じ型を繰り返す造形的な意味がなくなる。》
《基本形は抽象形でも具象形でもよいが、なるべく単純な形がよい。形を構成するとき、複雑な形は組み合わせにくく、また崩れやすくもなる。》
- ・ はさみで形を切り取る。(写真3)
- ・ 写真は型紙の作例である。(写真4)

●粘土を板状に延ばす

- ※板状粘土：創作陶芸講座4 / 「板状粘土をレリーフに構成して！」参照
- ・ 約 1.5Kg の水簸粘土を手のひらで叩いて丁寧延ばしていく。
- ・ 板状に延ばした粘土をタタラ板と粘土棒を

使って表面と厚さを均一にする。

- ・ ここでは厚さ 10mm のタタラ板を使い、粘土を厚さ 10mm の板状に延ばした。
《板状粘土を立体的に構成するのに、薄すぎると組み立てにくくなる。》

●型紙を板状粘土に当て、粘土切り針で基本形を切り抜く

- ・ 粘土の板から無駄なく形が取れるように型紙を置く。(写真5)
《粘土の板に切り針を垂直に刺し、基本形の切り口ができるだけ直角になると、形を組み合わせしたり、構成したりするときに接続しやすい。》
- ・ 複数の基本形をつくっておく。(写真6)
《基本形は必要に応じて、後でつくり足すこともできる。》

●切り抜いた粘土の基本形を生乾きにする

- ※生乾き：創作陶芸講座4 / 「板状粘土をレリーフに構成して！」参照



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7

《必ずしも「生乾き」にする必要はないが、この段取りを行っておくと形を組み合わせるときに粘土が崩れず、作業がしやすい。》

●基本形を構成し、組み立てる台（グラウンド）をつくる

- ・基本形と同様、約1cm程度の厚さが適当である。(写真7)

《完成したオブジェをイメージして台の形を考えるようにする。》

《基本形を切り取ったときに余った粘土を練り直して使うとよい。》

●基本形、同じ形を組み合わせせてオブジェを構成する

- ・接続、接着部に「どべ」を十分につけ、しっかりと台や相互の形に固定していく。(写真8)

《形と形に隙間ができるようなときには粘

土を補充して接続する。》

- ・基本形を曲げたりねじったりして組み合わせることもできる。(写真9・10・11)
- ・さまざまな方向から全体のバランスを考え、表現したいオブジェを追究する。(写真12)

●色化粧土を筆で塗って彩色する

※色化粧土：創作陶芸講座4／「板状粘土をレリーフに構成して！」参照

- ・ここで使用した色化粧土は白、青、緑、黄、ピンク、茶、水色の7色である。

《これらは混色して使うこともできる。》

- ・筆に化粧土をつけ、粘土の表面に置くように塗る。(写真13)

●色化粧土を袋から絞り出して彩色する

- ・化粧土をスポイトに入れて絞り出し、盛り上げるように線を描く方法を「スリップウ



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13

「エア／イッチン」という。

- ここでは次のような簡易的な方法を使った。
小さなポリ袋に化粧土を入れ、角をはさみで切り取って穴を開ける。(写真 14・15・16)
《穴の大きさにより線の太さを変えることができる。》
- スリップウェアは盛り上がった細い線や



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17

点が表現できる。任意で表現に取り入れる。
(写真 17)

●乾燥させて 1200℃、無釉で焼成する

- 形を継ぎ合わせてあるので、急乾燥による割れを防ぐために時間をかけてゆっくりと乾燥させる。

表現のバラエティ

写真 18 「家族のつながり」
〔未焼成〕(高さ約 16cm)



写真 19 「さえずり」〔未焼成〕
(高さ約 18cm)



写真 20 完成作品
「手足のオブジェ」
〔約 1200℃焼成／無釉〕
(高さ約 18cm)



写真 21 完成作品「大空へ」
〔約 1200℃焼成／無釉・部分炭化〕(高さ約 16cm)

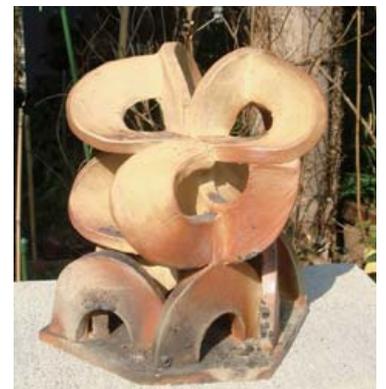


写真 22 完成作品「輪舞」
〔約 1200℃焼成／無釉・部分炭化〕(高さ約 20cm)